

平成30年度学内版 GP 成果報告書

<p>取組名称</p>	<p>ケースメソッド・反転学習・ICT 活用を組み合わせた実践的心理学の授業設計</p>	
<p>実施組織 (または対象のカリキュラム)</p>	<p>教育学部学校教育教員養成課程心理支援教育コース</p>	
<p>※連携する他学部・機関がある場合は記入</p>		
<p>実施責任者(所属)</p>	<p>島田英昭(学術研究院教育学系)</p>	
<p>取組の目標</p>	<p>ケースメソッド・反転学習・ICT 活用を組み合わせた実践的心理学の授業設計を行うこと</p>	
<p>1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「知覚・認知心理学」の授業の1時間を対象として、ケースメソッドを用いた運営を行った。学校における保護者面談の会話をオリジナルに作成した。それまでに扱った記憶、知覚と注意、知識等を具体的な学校場面で応用する場面を想定した。反転学習とICT活用を組み合わせ、eALPSを用いて、資料のダウンロード、ケースの検討を事前課題として、その成果を事前提出する形式で行った。事前課題を前提に、グループディスカッションを行った。</li> <li>2. 「現代教育概論Ⅱ」の授業の1時間を対象として、ケースメソッドを用いた運営を行った。移民と集団対立を題材として、学校における異文化理解についてのケースをオリジナルに作成した。授業運営の都合上、反転学習とICT活用は行わず、ケースメソッドの部分のみを実現した。ケースの読解後、グループディスカッションを行った。</li> <li>3. 申請計画通り、2020年度開講の公認心理師科目「産業・組織心理学」の運営に用いるための文献資料を収集し、調査した。</li> </ol>	
<p>2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望  (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)</p>	<p>a. 達成できた</p>	<p>(評価理由)</p> <p>産業・組織心理学の運営に用いるための試行を十分に達成できたと考えられる。ケースメソッド、反転学習、ICT活用の組み合わせについて、2つの授業を事例に運営できることを示した。</p> <p>また、知覚・認知心理学および現代教育概論Ⅱの両授業において、受講生の自由記述による振り返りを分析した。その結果、「ただ知識を持っているだけではだめだと強く感じた」等、実際の仕事現場(今回は学校)に関係した思考の意義の記述が多く見られた。ここから、学術的知見(今回は心理学)と現場の橋渡しをするというケースメソッドの利点を確認できたと考えられる。また、「他の3人の話を聞いて、自分にはない考え、支援策がたくさんあり、とても勉強になった」等、グループディスカッションを通じた現場対応の多様性についての記述が多く見られた。ここから、グループディスカッションと組み合わせることで、学術的視点から現場を考える際の多様性の重要性についての理解が深まったと考えられる。</p> <p>さらに、文献調査により、産業・組織心理学における運営の情報を得ることができた。</p>

(今後の展望)

申請計画通り、産業・組織心理学の運用にそのまま応用が可能である。ただし、産業・組織場面に合わせた場面設定が必要である。そのための文献研究も行ってきたが、効果的なケース設計のノウハウを今後検討する必要がある。